

平成 25 年 3 月 28 日
気 仙 沼 市

平成25年 震災復興推進会議委員による「震災復興意識調査」報告

1 目的

東日本大震災からの復興状況を定期的に把握するため、復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。(試験的に実施)

2 調査の概要

(1)調査対象

市震災復興推進会議委員 43人

(2)調査方法

郵送法(郵送による発送, 返信用封筒による返送)

(3)調査対象時期

平成25年2月

(4)調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感

問2 地域経済の回復に対する実感

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(5)回収結果

有効回収率 91% (39 名 / 43 名)

(6)回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男	36	92%
女	3	8%

②住宅被害の有無

分類別	人数	割合
被害あり	23	59%
被害なし	15	38%
未記入	1	3%

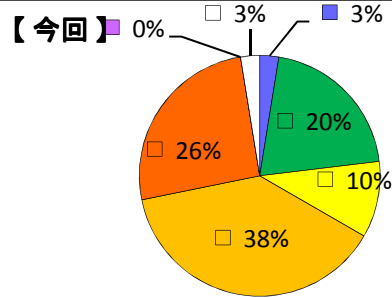
問1 被災者の生活の回復に対する実感

(1)被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復度)

【設問】

あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

- 1. 回復した
- 2. やや回復した
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり回復していない
- 5. 回復していない
- 6. 分からない
- 未記入

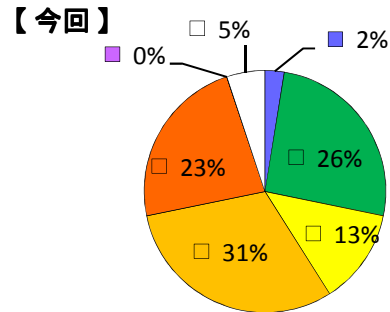


(2)3ヶ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】

あなたの周囲をご覧になって、最近(3ヶ月間程度)の被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？

- 1. 進んでいる
- 2. やや進んでいる
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり進んでいない
- 5. 進んでいない
- 6. 分からない
- 未記入



(3)回復度及び進捗状況に関する理由[自由記載](※コメント公表許可のあったもののみ)

区分	理由
「1. 回復した」または「1. 進んでいる」の理由	周囲は被害はほとんどない(入沢)ので、以前通りの生活に戻っている。【70代・男】
「2. やや回復した」または「2. やや進んでいる」の理由	昨年10月より、鹿折地区のまちづくり協議会を設立、現在各地区及び大学よりアドバイザーの協力により、復旧・復興に向けて支援をいただいている状況にある。国道45号線の南側は一部山側に集団住宅建設を決定しているようだが、他区特に、13地区(本浜、新浜、錦町等)はいまだ移転地での新築もまだ予定の中にあり、仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされている現状にあり、早期に国、県、市一帯となった対応を求める。【70代・男】
	新月地区以外の被災者の土地の購入、賃借が活発に見受けられ商店、事務所、加工場、宅地等の建築が盛んに行われている。【60代・男】

区分	理由
「2. やや回復した」または「2. やや進んでいる」の理由	<p>会社や事業所等はかなり回復したように思う。住環境に関しては、再建をして新たな出発をする方達も見受けられるようになったが、まだ多くの方達が仮設住宅での生活を余議なくされており、生活の回復は決して進んでいるとは言えないと思う。【60代・女】</p> <p>災害公営住宅の建設など、復興が形となって見えてきている。【50代・男】</p>
「3. どちらとも言えない」の理由	<p>東日本大震災によって、当会でも多くの会員の方が全壊、半壊等被災し、仮設やみなし仮設での生活を続けており、職を失った方もいる。被災直後に比べれば、生活は安定しているように思うが、やはり被災前の状況とは異なり、不安も多く抱えており、止むなく県外へ就職した会員もいるのが現状である。高齢者は福祉の充実を、子育て中の母子家庭では少しでも経済的負担が少なくなることを、また、収入アップを望んでいる。安心して老後が過ごせたり、子育てができるようにと願っている。心のケアも大事だと思う。地域の方々や、会員同志のふれあいを多く持ち、互いに支え合いながら乗り切っていきたいと思う。【60代・女】</p>
「4. あまり回復していない」または「4. あまり進んでいない」の理由	<p>・復興はこれからが本番。特にこれから2～3年間は正念場。さらなる「補助金」などで支援が必要。→住宅（新築）など。</p> <p>・雇用（新規）と震災前からの従業員への市独自の補助金が求められる。合わせて雇用している事業所へも同様。→なかなか取引先からの注文が戻らない。しかし雇用を守るため。また建設・土木の復興特需により賃金格差問題。【60代・男】</p> <p>収入減で経済的に回復していない方々が多いが、被災の土地をちょっと整備して駐車場として貸し出して生活の回復が進んでいる方々も増えてきている。仮設住宅から普通の家屋に移り住める方々が多くなれば、回復度が増したと言えるが、10%も満たない現状では回復は進んでいない。小さくとも我が家に住みたいと懸命に頑張っている方々への支援が望ましい。【70代・男】</p> <p>・住宅の復興が成しえてないこと。</p> <p>・インフラの整備もまだまだ不十分であること。</p> <p>・産業の復興の遅れにより、雇用環境が不十分であること。</p> <p>・自治体の方向性はなんとなく見えてはいるが、決定されていないことも多く、いずれにしても施設設備等の構築はほとんど成しえておらず、実態としては5%にも達していない様に感じられる。【40代・男】</p> <p>個人差はあるものの、年配の方々（60才以上）が部屋にこもる現象が多く見られる。何らかの仕事、または役割があれば、大きく変わる。1日も早く戸建の家が急がれる。【50代・男】</p> <p>自力で住宅を再建されている方はほんのわずかしは見当たらない。【70代・男】</p> <p>現在の被災地の現状を見ると、回復しているとは思われない。【70代・男】</p> <p>・浸水地域の主要道路は嵩上げされ、信号や街路灯なども設置されはじめていること、仮設商店街の開店等で一部活気は戻っており、被災建物の解体も進んでいる。ただし、その作業スピードは遅く、面的な回復はまだ見えていない印象。土地所有権に起因する課題が大きいと思うが、国の大胆な補助を強く求め、復興計画の青写真の早期実現を凶っていただきたい。</p> <p>・浸水地域への街路灯設置が進んでおり、明るさを取り戻しつつある印象。新本町橋の竣工もあり進んでいるようにも見えるが、面的な回復の進み具合は分かりにくい。【50代・男】</p> <p>仮設住宅入居2年が経過する中で、新たな土地への住居の建築または、公営住宅を希望する被災者が増加する一方で、集団移転予定地の開発の遅れ、公営住宅への数年後の入居、更には住宅建築費用の高騰等、ここに来て将来への不安が強くなる住民が増加している。【男】</p>
「5. 回復していない」または「5. 進んでいない」の理由	<p>近くにスーパーがない。買物に不便である。老人は車がない。【80代・男】</p> <p>今さらこの様なアンケートを取っている様では、復興はまだ先の事と思う。気仙沼のトップとして早く街の姿を決めてほしい。長くなると人の気持ちは変わり、気仙沼に住む人が少なくなる。【60代・男】</p> <p>津波で被災した小泉、大谷地域で回復が遅れている。住居は生活の基盤だけに早めに回復を望んでいる。【60代・男】</p> <p>浸水地域全体のランドデザインの実感が湧かないので、個人的見解だけが一人歩きしているように思われる。拙速と言われても具現化する事を望む。【60代・男】</p>

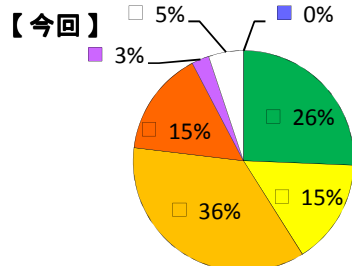
問2 地域経済の回復に対する実感

(1) 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復度)

【設問】

あなたの周囲をご覧になって、地域経済は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

- 1. 回復した
- 2. やや回復した
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり回復していない
- 5. 回復していない
- 6. 分からない
- 未記入

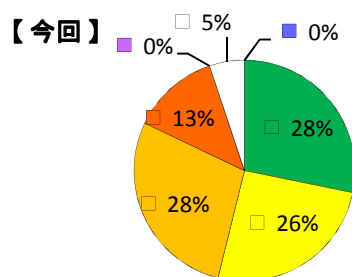


(2) 3ヶ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】

あなたの周囲をご覧になって、最近(3ヶ月間程度)の地域経済の回復の進み具合は、どの

- 1. 進んだ
- 2. やや進んだ
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり進んでいない
- 5. 進んでいない
- 6. 分からない
- 未記入



(3) 回復度及び進捗状況に関する理由[自由記載](※コメント公表許可のあったもののみ)

区分	理由
「1. 回復した」または「1. 進んでいる」の理由	
「2. やや回復した」または「2. やや進んでいる」の理由	被害の無かった地域に様々な商業施設、病院、銀行など移転して活発な活動を行っている。近々になって、水産加工場も整備され、あとは区画整理事業の終了をもって、そこに様々な施設が張りついて、旧来の市以上の気仙沼市になれると思う。それにしてもスピードが必要。【70代・男】
	業種により大きく異なると思う。建築関係の経営者は被災前、会社を閉めることを考えていたようなが、皮肉なことに今回の震災で事業を継続できたと話していた。事業を再開しても立地の恵まれない所であったり、仮設店舗であったりと十分な条件ではなく厳しい経営状態であるということによく耳にする。【60代・女】
	国、県による中小企業に対する補助事業はある程度充実している中、資本がある企業または取引先を確保できている企業は昨年までに再建できているが、今後、顧客獲得が困難な企業は再建を諦めているケースが発生している。また、通信業の立場から見ても、再建による移転工事、通信設備の新たな構築等の需要が顕著に見られないことから、平成25年においては、経済の回復はあまり進んでいないと思われる。【男】
「3. どちらとも言えない」の理由	主要産業である水産加工業等の復興が一步ずつではあるが、着実に進んでいる。【50代・男】
	・被災した漁船等の復旧については、80%程度完了している。 ・魚市場～関連産業については20%程度の達成率。 ・観光資源等の復旧については、ほとんど未着手。 ・国、自治体の方向性は見えているが、施設設備等のハード面では分野によってかなり差がある。各業種毎の計画はある様だが、あくまで計画段階のものが多く、実態として見えていない様に感じられる。【40代・男】

区分	理由
「3. どちらとも言えない」の理由	工場などはできたものの、雇用の問題、販売の問題が深刻になりつつある。地場産業（ワカメ）等の生産がやや回復し、浜は多少の活気が戻りつつある。商店街については、訪問客が減少し売上がいまいち伸び悩み傾向にある。【50代・男】
	鹿折地区は、浜町、本浜、新浜地区を中心に「カモメ通り」という商店街と、水産加工場により労働人口の就業率はかなりのパーセンテージがあったが、震災により大手企業各社は、九州、北海道地域に工場を移して、故里鹿折を離れ就業しており、家族構成にも精神的及び経済的にも不安な日々を送っている状況にある様だ。市当局（各部署）も昼夜を問わず県外からの支援の元に努力していると思うが、尚一層の復興に努めていただきたいと思う。【70代・男】
	(1) 地域経済の回復度：沿岸漁業は、各種の支援などにより被災前と同じ程度ではないが、再建が進んでいるが、稲作などを中心とした農業は、復旧が遅れている。また他の産業も含めて、被災前の漁業や農業から廃業している事業者もいることから、回復という表現でとらえることは疑問と思う。 (2) 3ヶ月間の進捗状況：被災前と同じ状況には回復していない程度で、回復の進み具合として大きな進捗は感じられない。そもそも被災前の人口に地域が戻っていない。減少している状況は変わっていない。【30代・男】
	水産業については、冷凍工場の新設等進んでいるところも見られるが、その他の商店などは、まだ仮設店舗での営業が多く、回復が進んでいるとは思われない。【70代・男】
「4. あまり回復していない」または「4. あまり進んでいない」の理由	・新政権となり、復興の加速を期待する。（市・業界が一体となり政府へ要望をする。（上京）） ・震災前から地域経済は右肩下り。→復興と同時にソフト面（新技術・新商品の開拓など）や将来へ向けての新事業の併用などが具体的に必要。 ・働き手不足。→他産業（建設・土木など） ・地域外へ人口流出が原因。 ・工事費・機械などが1.5倍～1.7倍に高騰。（便乗値上げ？）は【60代・男】
	生活保護や国の事業で給料が高く市内の企業で働く人がいなくなっている。【60代・男】
	・問1に記した通り、漁業はワカメ養殖に取り組むようになった。他のカキ、ホタテ等の養殖は、その処理する施設がない。人もいないという事から取り組む人もいない。それができるようになれば、海の方の生活は回復に向かうと思う。 ・農業も同じように、ガレキの撤去、除塩が進めば、回復すると思う。現在はイチゴの方々が復旧して活動を始めた所である。 ・観光は道路、堤防、防潮林等の復旧・復興が始まれば、回復に向かうと思う。 ・岩井崎では民宿を始める人、店を始める人が建築中である。【60代・男】
	市また、商工会議所等の様々な施策によって、事業所に対しての支援は進んでいるように思う。ただ、土地の高騰化や、具体的にまちの全体像が見えにくいこと等により、仮設店舗や現在営業している所からの移転が難しいということもあると聞き、事業を続けていくことへの不安も大きいと思う。県や国の力を借りなくては、できないことも多いと思うが、気仙沼が活力あるまちになるためによりしくお願い致します。【60代・女】
「5. 回復していない」または「5. 進んでいない」の理由	・農地の復旧が進んでいない。 ・営農形態の変更（新たな施設園芸等）に対応しないと復興は難しい。【60代・男】
	農家は飯半分だけでも一日も早く水田を耕作したいが、未だ事業が0%であり、当分は復旧の見込みがない状況であり、行政の怠慢であり期待できない。【80代・男】
	水産業界の工場再建が少しずつ進んでいるようだが、震災前の状況と比較するとまだまだ操業している箇所は少ない。水揚げ高もまだままだの印象。その他の中小商工業者も再建する土地が少なく、店舗数が大きく減少している。仮設商店街もオープン当初の賑わいも翳りを見せ始め、活気が薄らいでいる印象がある。地価の高騰や再建費用負担が大きく事業者が前に踏み出せないのではないか。【50代・男】
「6. 分からない」の理由	(1) 農地、事業所等被災していないので、当地区（新月地区）の判断はできない。 (2) 地区内（新月地区）の交通量が増加している。特に朝・晩の国道284号の渋滞は震災前はなかった事であり、それなりに人の移動があり、経済が回復傾向にあるのではなからうか。【60代・男】
「未記入」の理由	居住地の周囲は住宅地なので経済の回復に関しては特に感じられることはないが、魚市場周辺の回復は ①魚市場や係留岸壁は計画通りに復旧工事は進んでいる（若干の遅れはあるが） ②背後の復旧はスポット的に進んでいるところあるも総合的にはあまり進んでいない状況である。【70代・男】

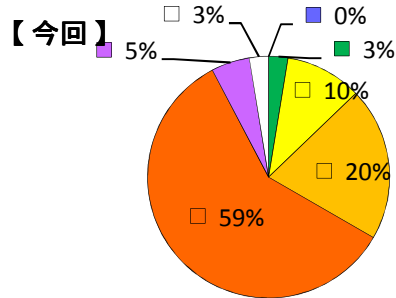
問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(1) 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復度)

【設問】

あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

- 1. 達成した
- 2. やや達成した
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり達成していない
- 5. 達成していない
- 6. 分からない
- 未記入

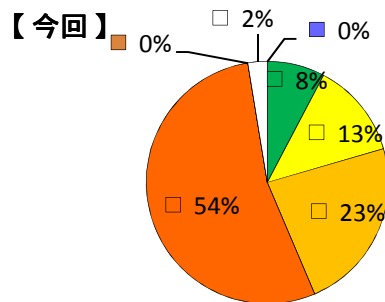


(2) 3ヶ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】

あなたの周囲をご覧になって、最近(3ヶ月間程度)の災害に強い安全なまちづくりの進捗具合は、どの程度と感じますか？

- 1. 進んでいる
- 2. やや進んでいる
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり進んでいない
- 5. 進んでいない
- 6. 分からない
- 未記入



(3) 回復度及び進捗状況に関する理由[自由記載](※コメント公表許可のあったもののみ)

区分	理由
「1. 回復した」または「1. 進んでいる」の理由	
「2. やや回復した」または「2. やや進んでいる」の理由	防潮堤の必要性が市民の方々に理解されつつあると感じられる。【50代・男】
「3. どちらとも言えない」の理由	①核となる道路の整備を急ぐ。(又いつ来るかわからない津波への対応。)避難道など。 ②水産加工施設等の内陸部移転の増加。→三陸道沿い(もちろん内側)に団地造成を急ぐ。 ③沿岸部の被災者・事業所が内陸部へ移転し、都市環境が変化している。→この内陸部や山間部のインフラ整備が必要。(問2と関連する。)【60代・男】
「4. あまり回復していない」または「4. あまり進んでいない」の理由	まず災害に強い、まちづくりは震災より2年過ぎた段階での進捗状況は余り進んでいない状況に感じる。これは仕方の無い事であると思っている。何百年いや千年に1回とも言われている大震災であるため、あつという間に復興が進むはずはないと思う。宮城県沖地震が何年も前から予測されていたのに、県、市ではその防災対策を怠っていた様に強く思う。最終的には、高台や、山の方に逃げる道路の整備を最重要と考え、海岸近くに津波から身を守る高層ビルの建設も必要と考える。【70代・男】
	防潮堤については、住民との話し合いが進んでいるようには見えない。【70代・男】

区分	理由
「4. あまり回復していない」または「4. あまり進んでいない」の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤の整備は、多くの議論を重ねて、地域ごとに一定の方向が出されているようであり、一步進んでいると思う。 ・海沿いを運転中に地震が起きた時、津波を回避するための避難道の確保を早急にできればいいと思う。 ・行政区単位や隣組単位の地域防災体制が作られるといいのではないかなと思う。また、災害発生時、避難所の拠点となるのは公民館等の公共施設であるので、その運営がスムーズにできるように地域の人々とのコミュニケーションを密にし、互いの信頼関係を築けるようにすることが大切と思う。【60代・女】 ・防潮堤の整備や海岸付近の整備が進んでいない。 ・災害時、自動車による避難もあることから避難のあり方がまだ不明確となっている。 ・新たな防災計画の着手が遅れており、3月11日と同程度の津波に対する備えができていない。従来指定避難場所の多くは浸水地域にあり、再整備の必要がある。昨年秋の防災訓練でも、参加した市民は少ないと感じた。2年近く経過し、防災意識が薄らいできているのではないかな。 ・市民の関心が津波に向いているが、地震による土砂崩れや河川の氾濫などに対する防災対策や、意識強化が不足していると感じる。【50代・男】
「5. 回復していない」または「5. 進んでいない」の理由	<p>住民の勉強会は度々開かれているが、国や県の方針の押しつけの感じがあり、住民の思いが通じないことに、もうあきらめている状況にある。（もちろん全ての住民ではないが）自分事と他人事の違いか？住民の安全の確保は防潮堤では無理で、防潮堤はほんの一部の安全の確保にしかならず、どうしてこの一部のことには大きな力を傾けているのか？【70代・男】</p> <p>防潮堤の高さ構造は地元の声を十分に生かすことが大事である。14.7mにして、津波は防げない。高潮に耐える高さ6m～7mで充分である。河川の堤防についても現在地に肉付した程度で良い。無駄な構造にすべきでない。勾配1：3とは馬鹿の設計であるので変更する様望む。【80代・男】</p> <p>地域により防潮堤のあり方は違ってあたりまえ。皆同じでいいのか、自然が壊れたりしていいか考えてほしい。中央の人間が住んでいない所を決めるのはおかしい。【60代・男】</p> <p>ほとんどが計画段階で達成度という視点では形が見えない為、皆無の様に感じられる。【40代・男】</p> <p>ほとんどできていない！！時間を要しても防潮堤については慎重になってほしい。【50代・男】</p> <p>新月地区は該当しないと思うが、現在の海岸部を見た限りでは進んでいないと言わざるを得ない。【60代・男】</p> <p>どのようなまちづくりが進むのか明らかになっていないのが不安の材料。海岸線に防潮堤があり、国道がどうなるのか、JRはどこに移るのか、三陸道まで避難道路はどう作られるのか検討していただきたい。避難道路の多くは市道となっているが、学校周辺の道路は狭いため拡幅が求められている。【60代・男】</p> <p>防潮堤の高さについて疑問を感じる。大潮に対応するぐらいで充分である。津波に対応するというが、本当にできるのか？【70代・男】</p> <p>災害に強い安全なまちづくりは、これから着手されるのであり、現段階では返答できないように思う。ただ、今回の大震災で被害を増大させた一因として私達市民の「防災意識の欠如」「津波の自己判断」があったように思う。ハード面での安全なまちづくりは、時間を要するが、防災意識の啓発は常に即必要だと思う。【60代・女】</p> <p>「達成」という言葉を使う事はまだまだ先の事と思う程、安全なまちづくりは進んでいない。防潮堤については、各地域で暮らし、漁業等に携わっている住民の意見を国、県に早めに伝え、早期に整備を進める事が重要であり、避難方策等のまちづくりについては、有識者も含めて、行政から具体的な案を市民に示し、それを基に議論しなければ、更に遅れが生じると危惧する。【男】</p>
「6. 分からない」の理由	<p>防潮堤の整備、避難方策の事業決定して、始まれば、まちづくりの一步を踏み出したと思う。事業決定の中に内湾の商店街をどう入れるのか、事業者（商店主）にまかせるのか良く分からない。【70代・男】</p> <p>防潮堤に関しては、どちらとも言えないが、あのような大震災を経験したのだから、二度と人命を失わないことを肝に命じて、取り組んで頂きたいと思う。避難道をきちんと整備し、誰でもいざという時に確実に避難できるよう拡幅したり表示を分かるようにして頂きたい。また、避難所での女性への配慮、生活用品を十分に備蓄して頂くこともお願いしたい。公営住宅の耐震化や万が一の時でも即対応できる（例えばエレベーター、ガス等）ように。【60代・女】</p>